



令和3年度 6月人権一口講座



「差別にあった心の内側は」

皆さんは、アメリカバスケットボール界で活躍中の日本出身選手、八村塁さんをご存じでしょうか？

世界中で大人気のバスケットボールですが、その中でプロバスケットボール選手として「全米プロバスケットボール協会」のコートでプレーできるのはごくわずかです。そのような世界に富山県の高校を卒業して、単身アメリカに留学。大学で語学も学びながらその世界に挑戦した八村選手。私は、彼がテレビ画面越しにプロリーグ指名を受けた瞬間、バナー衝撃を覚えました。それはなんと「1巡目指名」だったからです。日本のプロ野球でもドラフト1巡目の指名と言ったら凄いことです。それが、世界が注目するアメリカのプロリーグで日本人が指名を受けたのですから。「凄ーい」「なんか嬉しい！」と思ったのは私だけではなかったはず。

しかし近頃、八村選手や大学でバスケットを頑張っている弟さんに対して、「人種差別」をする人々の存在が浮き上がってきました。卑劣極まりない言葉をダイレクトメールで送りつけるそうです。「死ね、生まれてきたのが間違い！」「ただバスケットがうまいだけだろう？」と尊重する気持ちも無く、醜い言葉を積みかけていました。私はびびくりしました。「どうして？世界で活躍する日本人として誇ってもいいのに、そんな言葉をぶつけるのどう？」

「ひがみ、やっかみ？」それはメッセージを送りつけた人に直に聞かないと解らないところです。送信元の人物は名を伏せています。また、名前や発信元が偽っていたら追及できません。卑怯な手法で姿をくらまします。悪意に満ちています。

八村選手は「以前からもあったよ。」と軽く受け流していましたが、本当の心のうちはどうなのでしょう。先曰ネットで、所属チームの宣伝用集合写真を見ました。各人が好きな言葉のシャツを着ていました。皆さん、八村選手はどんな文字に決めたいと思いますか？

「EQUALITY (平等)」と記してあったのです。「」で何を思いますか、感じますか？

「一人の人間としておとしめられることなく、軽く扱われることも無く、平等にしてもらいたい」八村選手の心からの願いでしょう。

〔熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和三年度六月号より〕

短いメッセージ 助け合いの傘があれば 悪口の雨にぬれないね

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 龍田中学校2年 岡田羽未さん (2020年度の作品より)